



緑の子

緑小よんかけ
○心をかけよう ○目をかけよう
○手をかけよう ○声をかけよう

令和8年 9月2日 発行

文責 校長 鈴木 宏和

夏休み作品展

夏休みには、自由研究や工作、絵画など、子供たちが自分でテーマや方法を選んで取り組む課題を出しています。保護者の皆様には、御家庭での見守りや励ましなど、御協力をいただきありがとうございます。

学校では、これらの課題を単なる「夏休みの宿題」としてではなく、これからの時代を生きる子供たちに必要な力を育むための大切な学びの機会と考えています。

これからの学びにおいては、教えられた知識を覚えることだけではなく、身に付けた知識や技能を生かして、自ら課題を見付け、考え、判断し、試行錯誤しながら、自分なりの答えや考えを表現する力が重要になります。また、「やってみよう」「もっと知りたい」という思いをもち、自分から学びに向かう姿勢も大切です。

■ 自由研究——「問い」を見付け、探究する

自由研究では、身近な自然や生活の中から「なぜだろう」「どうしてだろう」という疑問を見付け、自分なりの問いをもちます。そして、予想を立て、観察や実験、調査などを行い、結果を整理し、考察していきます。

予想どおりにならなかったときに、「なぜだろう」「方法を変えてみよう」と考えることに大きな価値があります。失敗や予想外の結果を次の学びにつなげる経験も、自由研究の重要な学びです。

■ 図画工作——「創る」ことを通して、考える

図画工作は、「何を作ろうか」「どんな形にしようか」「どうすれば丈夫になるだろうか」「もっと使いやすくするにはどうしたらよいだろうか」と考え、材料や道具を選び、実際に作りながら工夫を重ねていきます。

思いどおりにならなければ、作り直したり、方法を変えたりします。そこには、構想する力、創造する力、試行錯誤する力、問題を解決する力が必要になります。

■ 主体的で深い学びにつながる

これらは、学校で大切にしている「主体的に学ぶ」ということにつながります。

作品を作る際「自分で考えた」「工夫した」「挑戦した」という経験があれば、それは子供にとって価値ある学びです。

だからこそ、夏休みの課題では、そこに至るまでの「学びの過程」を大切にしたいと考えています。「やってみよう」という気持ちを支え、自ら学び、自ら考え、自らの力で課題を解決できる子供を育てていきたいと思ひます。

今年も保護者の皆様にも作品展をご観覧いただきました。延べ90名の方にご来校いただきました。ありがとうございました。

紹介したい作品ばかりでしたが、一部だけ紙面で紹介させていただきます。



段ボールで工作をしました。とても大きなもので迫力満点でした。



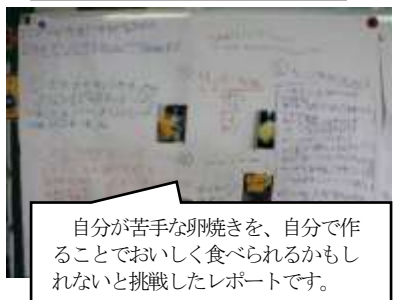
ペットボトルを使って、ろ過機を作りました。泥水をろ過した水も併せて展示されていました。



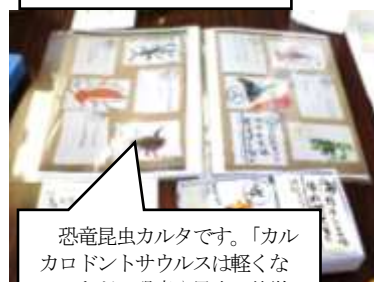
段ボールで作ったビー玉コースです。ビー玉がうまく転がるように試行錯誤しました。



氷の溶け方を観察しました。日向に置くよりも、水につけた方が速く溶けることなどを発見しました。



自分が苦手な卵焼きを、自分で作ることによっておいしく食べられるかもしれないと挑戦したレポートです。



恐竜昆虫カルタです。「カカロントサウルスは軽くない」など、恐竜や昆虫の特徴が読み札になっています。



ガチャガチャです。身近にあるもので作られていることに感心しました。

宮坂建設の守衛さん ～心あったか緑小校区の方々～

毎朝、校区を巡回していると、色々な方とお話をする機会があります。少し前のことですが、宮坂建設工業の守衛さんが声をかけてくれました。

㊦「いつも、ごみ拾いお疲れ様です。」

㊧「こちらこそ、子どもたちがご迷惑をおかけしていないでしょうか」と、返すとこんなお話をしてくださいました。

㊦「先日、低学年の子が、『家に帰ったけど、お母さんがいないの』と、私のところに来ました。」

㊦「『もう、お母さんは帰ってきているかもしれないから、もう一回お家へ戻ってごらん。

もし、まだ帰ってきていなかったら、おじさんの所へおいで。』と声をかけました。」

㊦「そのあとは、やって来なかったので、きっとおうちの人が帰ってきたのだと思います。」

㊧「そんなことがあったんですね。本当に、お世話になっています。ありがとうございました。」

あらためて地域の皆さんに支えられている事を感じるとともに、心がほっとあたたかくなりました。

本当にありがとうございました。これからもお世話になると思います。どうぞよろしくお願いします。



㊦…守衛さん ㊧…校長